

# わが家のアイドル



大賀茂にお住まいの  
佐々木 貴司さん・美苗さんの

長男 **真之助**くん (7歳)

長女 **ひなた**ちゃん (4歳)

仲良し兄妹のふたりです。  
たまにけんかもするけど本当は仲良し!  
わんぱくでいい。たくましく育ててね!



下田市はあいさつ運動実践中

「いんこたは」

元気なあいさつ、

ひろげよう



## 下田市内の指定文化財

その53

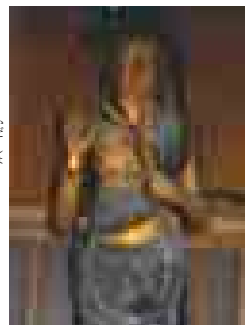
市指定文化財

観音寺

観音菩薩立像

所在地 須崎 観音寺

指定日 昭和56年8月7日



観音寺観音菩薩立像

失われた礼所

西伊豆・松崎・河津・下田・

南伊豆に点在する寺院を巡るのが伊豆横道三十三所観音霊場巡礼です。そのうちの二十番札所に挙げられていたのが須崎の補陀庵でした。

『華厳経』によると、観音は海に面した崖の上、補陀落という地に住んでいるといわれます。海に面した急斜面に家が立ち並ぶ須崎は補陀落のイメージそのものです。また、観音には海難救済の功德があり、須崎に相応しい守り仏です。補陀落に由来した名の補陀庵はこのような環境の中で信仰されてきたのでしょう。

残念ながら補陀庵は明治初めの廃仏毀釈の嵐の中で廃絶します。しかし、幸い札所本尊は難を逃れ、観音寺に移され、今に伝えられています。

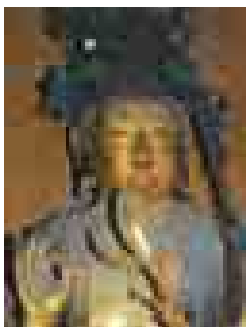
観音寺の観音菩薩立像

観音菩薩立像は像高147.5cm。松を用いた一木造で、両肩と肘先、手首先、両足先を別に造って取り付けています。腰に長方形の穴があり、内部が刮り抜かれています。これは材の干割れを防止するための技法です。

等身大に近い像を一木造とするのは、平安前期の特徴です。しかし小さな目鼻立ちと丸顔が生む穏やかな表情や、衣の襷を浅く刻む点は、平安後期の特徴を示しています。本像は、11世紀半ば以降に制作された像と考えられます。

後世の修理

本像には玉眼が入っています。玉眼は仏像に生身の人間のような瞳の輝きを与えるために、目にレンズ状の水晶をはめ込む技法。この技法は鎌倉時代に普及したもので、本像の推定年代と矛盾します。



穏やかな表情

貴重であるばかりでなく、地域の歴史を秘めているという点でも文化財なのです。

(市文化財保護審議委員田島) アクセス 下田駅より須崎行きバスで15分、終点・須崎バス停下車 徒歩3分  
問合せ先  
教育委員会生涯学習課

☎ 5055



「広報しもだ」は再生紙を使用しています

広報しもだ 2009.12月号

下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>